

## 本文用語注記

- ※1 P1【子どもの読書活動の推進に関する法律】 子どもの健やかな成長に資するため、子どもの読書活動の推進に関する基本理念、並びに国及び地方公共団体が積極的に読書環境の整備を図る責務等を示した法律。
- ※2 P3【ブックスタート】 1992年にイギリスで始まった絵本を通じて赤ちゃん和家人の心のふれあいを進め、子どもの言葉と豊かな心を育てる活動。類似事業では場の設定を行うが絵本の手渡しはない。本市ではブックスタート類似事業を経て平成27年度から4ヶ月健診時に絵本や本のリストなどを配付し読み聞かせをする事業実施。
- ※3 P3【子ども読書の日】 「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年2月制定）に基づき4月23日に設定された。国民の間に広く子どもの読書活動への関心と理解を求め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるように設けられた。
- ※4 P3【読書週間】 「こどもの読書週間」は読書推進運動協議会が主催するもので、昭和34年から始まった。こどもの日を含む2週間だったが、2000年の「子ども読書年」を機に、4月23日から5月12日までの3週間となった。「読書週間」は昭和27年から開始された全国規模で毎年秋に行われる読書の普及・啓発期間で、10月27日～11月9日。
- ※5 P3【読書活動】 読書とは本を読むこと。読書活動とは読書や読書に関わる言語活動。読み聞かせなどの子どもが読書に親しみ読書習慣を身に付けるためのさまざまな活動全般を含めたもので多様な活動が行われている。読み聞かせ = 絵本や紙芝居を見せながら語り手が活字の部分を読んで本の内容を伝える活動。ストーリーテリング = 本を見ながら読んで聞かせる「読み聞かせ」に対し、物語を覚えて本を使わずに語る活動。おはなし会 = 本に対して興味を持つように多様な方法でお話を聞かせる集まり。ブックトーク = テーマを決め関連する本を数冊紹介し、読書への動機付けをする活動。ペープサート = 人物の絵などを描いた紙に棒を付けたものを動かして演じる人形劇。パネルシアター = パネルにPペーパーという不織布で作った絵や図形を貼ったりはずしたりして展開する物語、歌などの表現活動。ブラックシアター = 黒いパネル布（毛羽立ちの良い布）を貼ったボードを舞台にして、Pペーパーに蛍光絵の具で色を塗って作った絵人形を貼ったりはずしたり、裏返したり、あちらこちらへ動かしながら演じる、おはなしやうたあそびのこと。部屋を暗くしてブラックライトを照らすことで、蛍光カラーの絵人形が色鮮やかに浮かび上がる。アニメーション = 読書をゲームとして楽しみながら、本への興味を持たせ、読解力など子どもの深く読む力を引き出そうとする活動。ビブリオバトル = 参加者同士で本を紹介し合い、もっとも読みたいと思う本を投票で決める活動。

- ※6 P3【学校セット配本】 各学校図書館と市立図書館の連携を図って学校教育活動の支援を目的とした事業。小中学校の児童生徒の読書や調べ学習を対象とした本を選書し、各テーマでセットして市内の各学校に図書の貸出・配本、回収を行う事業。
- ※7 P7【みやまの力】 「みやまの力」とは、一言で言えば、『みやま版「生きる力」』である。「みやま市の子ども達が目指すべき力」として、四つの力をあげている。「知」としては単に知識量ではなく生きて働く「知恵」を考え、「徳」としては児童生徒相互に関係を良好に築き維持できる「社会性」を、「体」としては生きるための基盤となる「健康」を考え、その中核に「挑戦力」を設定し総合力として捉えている。  
—平成27年度教育施策より抜粋—
- ※8 P7【裾野教育】 本市の子ども達に育てる「みやまの力」のために「裾野教育」を推進している。「裾野教育」とは、人生の土台を創る教育で、2つの面をあげている。「(1) 全小中学校で計画的に育成する教育」と「(2) 個人の進路や目標設定の選択幅を広くすることができる教育」をあげ、(1) に対しては「鍛える」面と「高める」面で捉えている。「鍛える」は、授業を中心に9年間で校種や発達特性に応じて学力をつけること、各種行事や部活動等において心と体を鍛えることである。「高める」は、図書館教育を充実して読書力や情報活用能力を高めることである。  
—平成27年度教育施策より抜粋—
- ※9 P8【家庭の約束10ヶ条】 子ども達の基本的な生活習慣の定着に向け、社会教育委員の会議を中心に市内全小学校・家庭との連携において推進している取組。福岡県が推進する「早寝・早起き・朝ごはん」運動等の啓発に努めている。
- ※10 P9【指標】 物事を判断したり評価したりするための目じるしとなるもの。
- ※11 P9【PDCAサイクル】 Pは“Plan”で計画作成、Dは“Do”で計画に沿った行動、Cは“Check”で結果と目標を比較し問題点の洗い出しや成功・失敗の要因分析、Aは“Action”で分析結果を受け計画の改善や実施体制の見直しなどを行う。PDCAサイクルは4つのステップからなり、これを繰り返し実施すること。
- ※12 P11【ファミリー読書】 読書習慣につなぐための家庭読書。みやま市内小学校においては、家族で20分以上読書する場を1週間設定し、本に親しんだり本の話題で家族のコミュニケーションを図ったりする取組。6月と11月に実施。
- ※13 P14【レファレンスサービス】 司書による調べもののお手伝い。図書館の貸出と同じくらい大事な基本的な図書館サービス。図書館利用者が、読書・学習・研究・調査などを目的として必要な情報や資料を求めた際に、司書が情報や必要な資料を検索・提供・回答することによって支援する業務。また、需要の多い質問に対して、予め、書誌・索引などの必要な資料を準備作成することもこれに付随した作業。